

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

開催日：令和5年3月7日（木）
時間：15：00～16：20
会場：深沢高等学校会議室
会議形態：対面会議
司会：日比野総括教諭
記録：杉井教諭

【出席委員】（出席者数7名／委員数8名）

池田 実 委員
池田 吉 伸 委員（副議長）
田中 純 委員（議長）
小林 瑞 幸 委員
里見 正 憲 委員
嶋村 勝 美 委員
田中 和 也 委員（本校校長）

＜説明のための出席教職員＞

村田 克 也 副校長
佐藤 竜 太 教頭
高野 真 一 事務長
大谷 英 弘 総括教諭
小松原 肇 総括教諭
佐藤 準 也 総括教諭
佐藤 英 幸 総括教諭
日比野 規 生 総括教諭（司会）
山本 英 夫 総括教諭
杉井 義 裕 教諭（記録）

＜公聴者はありませんでした＞

【校長あいさつ】

第3回の学校運営協議会にお集まりいただきありがとうございます。今年度は、学校行事もコロナ禍以前に戻ってきました。生徒参加のボランティア活動では、夏の新川清掃に約120人が参加し、片岡幼稚園児との交流もできてよかったです。第2回の学校運営協議会では、深高祭での様子を参観していただきました。

これからさらに生徒の様子を見ていただく機会が増えればよかったのですが、今回は最後の入学者選抜でした。昨年11月、12月の調査時点では募集定員に満たない志願者数でしたが、1月に増えて、二次募集を実施せずに選抜業務を終えることができました。無事に本校39期生を迎えます。定員割れを防げたことでは、支えてくれた地域の中学校のおかげです。

来年度からの学校運営協議会では、学識経験者を2名以上とし、第三者評価の視点を入れた学校評価を行うということが、神奈川県教育委員会から示されました。皆様には継続してご協力くださいますようお願いいたします。

これから各グループリーダーから今年度の取組成果を説明しますので、忌憚のないご意見をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

【事務局からの説明】令和5年度の実施結果に対しての学校関係者評価（資料に沿って）

- 1 教育課程 学習指導について
小松原総括教諭から説明

- 2 生徒指導・支援について
山本総括教諭、大谷総括教諭から説明
- 3 進路指導・支援について
佐藤準総括教諭から説明
- 4 地域等との協働について
日比野総括教諭、高野事務長から説明
- 5 学校管理 学校運営について
佐藤英総括教諭、村田副校長から説明

【協議】学校運営に関して委員からの意見聴取（田中議長、池田副議長による議事進行）
里見委員

- ・非常に丁寧で必要十分な説明をいただいた。
- ・学習支援の面では、新カリキュラムで3学年が揃う。新しい大学入試に向けて研究を重ねてほしい。大学の側でも新教育課程での入試を研究している。学校の授業と進路指導が、生徒のために適切に行われることを願う。文化祭で見ることができた活動も生徒が主体的で良かった。
- ・授業評価では、2年生が若干低くなっている。中だるみがあるのでは。
- ・ICT環境の整備も充実している。引き続き整備してほしい。BYODを含めてICTの利活用にはメリットとデメリットの両面がある。デメリットについてはどのように指導しているか。
- ・進路指導については、細かく指導していただけている。年内受験の増加で、3分の2の生徒の進学先が決まったあと、11月以降の学習のモチベーションをどのように保たせているか。

（回答：小松原総括教諭）

- ・本校ではiPadを推奨し、7割程度の生徒が推奨機器を購入している。その他の生徒は自宅にある機器を活用している。生徒は楽しそうに使っている。
デメリットでは、SNSに係るトラブルが考えられ、トラブルのないように指導を行っている。授業内での私的な取り扱いは散見されるが、その際には注意をしており、生徒は素直に従う。
- ・今年の2年生は新課程の生徒である。中だるみはあるかもしれないが、教員が意欲的に取り組むことでとどまっているのではないか。

（回答：佐藤準総括教諭）

- ・モチベーションが下がる者もいる。しかし、普段から真面目に取り組んできた生徒がその後もしっかり学業に取組み、卒業式まで保ったという実態である。むしろ、一般受験に臨む生徒のほうがモチベーションの低下率が大きい。

嶋村委員

- ・来年度の保護者や生徒のモチベーションをどのようにするか。今後はさらに学年が減っていく中で、縦のつながりが減少する。学年差による育ち、上下による実体験が不足し感じづらくなる。学校として対策を考えて行かなければ

(回答：小松原総括教諭)

- ・下級生がいることはとても大事である。地域との交流等を充実させて対応したい。

池田吉伸委員

- ・文化祭を参観して、高校生はこんなにも自主的にやるのかなと感心した。参観して楽しめた。団結してTシャツを作っている姿も良かった。在校生がしっかり活動しているため、新入生募集でも倍率が出たのだろう。生徒が自信をもっている。子どもたちを信じてやって進んでほしい。来年度以降の工夫に期待する。
- ・生徒による授業評価について、項目6番と7番について、3年生になると低い評価の割合が「0」となっている。これは3年生が、これまでの学習成果を、課題解決に生かしたり総合的に関連付けたりしているということである。どのように関連付けているのか。

(回答：佐藤準総括教諭)

- ・総合的な探究の時間の取組で朝読書を継続している。生徒は授業以外で読書からも知識・情報を得て、年度末の発表に向けて各自のテーマで課題解決をまとめていく。私の授業では「問い」のスパイラルを繰り返すよう心掛けている。考えること以前に知識の重要性を生徒自身に自覚させるためである。授業での学びと総合的な探究の時間の取組の二つがうまく機能していると考える。総合的な探究の時間の取組では、生徒各自が課題をみつけて主体的に動く。3年卒はここ数年SDGsを共通テーマにしている。今年は、SDGsという枠組み組み自体が間違っているのではないか、という疑いを課題設定した生徒が現れ、具体的には「ソーラーパネル」を設置するために山の木を切っているのは果たしてよいのかという問題提起だった。普段の取組から主体性を育てている。

田中純委員

- ・教育相談の件で、年々学校に来られない生徒が増加している、と報告があった。鎌倉市内の幼、小、中では研修を受講した保護者が教室内や教室に入るための手助けを行っている。高校でもそのような支援が必要な生徒に対して対策があると良いのでは。SCが来ているからといっても、生徒が学校に来られるようになるとは限らない。SCの稼働率、教室に入りたくても入れない生徒はどのくらいいるのか。また、児童相談所等にどのように繋げていくか。

(回答：村田副校長)

- ・今年からSCに加えてSSWが各校にそれぞれ年35回配置され、長期休業中を除けばほぼ週1回のペースで金曜日に校内にいてもらえている。稼働率について、カウンセリングは毎回ほぼ埋まっている。予約は常に入っている。教員とは違った視点から生徒にアプローチできるのが生徒にとって良い。SCとSSWが同じ日に在籍するため、情報共有もしやすく、児童相談所や役所との連携ではSSWが即座に対応して今年ほうまくいっている。外部連携が強化された。早期発見、早期対応につながっている。

小林委員

- ・支援が必要な生徒、学校に通いづらい生徒に対して、鎌倉市ではフリースクール支援を行っている。高校に在籍しているとフリースクールという選択肢が出づらいたろうが、例年通りではなく、新たな支援を考えてもよい。鎌倉市では星山先生を講師とした子ども発達支援サポーター養成講座を行っている。
- ・完校に向けて、校舎の教室が不使用なものが増えてしまうのではないかと。空き教室の前向きな利用方法があると良いのではないかと。
- ・教員数の減少による部活動運営については、地域や卒業生の力を借りることも良いのではないかと。

池田実委員

- ・学園祭では生徒が自主的に動いている姿を見た。体育館のダンス等素晴らしかった。テレビで見るとレベルだった。今の生徒はすごい。
- ・球技大会も生徒主体でうまく運営している。実行委員の大切さを感じる。今後も実行委員が主体でやってくことを継続してほしい。
- ・新川清掃をはじめ、様々なボランティア活動を学校から外にでてやるという実体験が大切だ。深沢高校が無くなった後はどうしようかと思う。完校まで続けていただけたらありがたい。

田中委員（校長）

- ・生徒支援の制度として、今年には教育委員会の新たな施策で「かながわ子どもサポートドック」という取組を始めました。生徒各自がアンケートに答えて、SCとSSWが揃って看取っていきます。
- ・コロナ禍の影響なのか、今の生徒はちょっとしたことで人間関係に躓いてしまうようです。友人との会話をきっかけとして、学校に来られなくなってしまうこともあります。日々の言動に注意していかねばならない状況です。生徒支援を強化していきます。また、入学してきた生徒の期待を裏切らないように、学校運営と教育活動に取り組んでまいります。今日いただいたご意見を前向きにとらえていきたいと存じます。ありがとうございました。

以上